

2013年第2回日本地球化学会評議員会 議事録(案)

期間:2013年5月30日(木)~8月16日(金)

方法:メール会議。審議事項は可否を庶務幹事宛返信、全員を母数とし過半数で可決とする。ルーチン的なものは、異議がなければ(返信なしの場合も含む)承認されたものとみなす。集計結果は原則として付帯意見を含めて評議員に開示。

1. 審議事項

1.1. Goldschmidt Conference (GC)協賛金引き上げについて(5/30-6/5)

Geochemical Society (GS)、European Association of Geochemistry (EAG)との協力関係強化の意思をアピールするため、今年からGCへの協賛金を従来の\$2000から\$3000に引き上げることとした。なお、本会のGC基金から2013~2015の3年分については拠出可能。

1.2 学会賞受賞候補者の承認(6/6-6/11)

受賞者選考委員会の川幡委員長の報告を受け、本年度学会賞に野尻幸宏会員、奨励賞に亀山 宗彦、白井 厚太郎、光延 聖の各会員に授与することが承認された。

1.3. GJ科研費の執行について (6/12-18)

「広告・宣伝費」を利用してテラパブからGJ冊子体、CD-ROMを購入し、GC2013ブースでの無償配布することが承認された。

1.4. 和文誌「地球化学」次期編集長について(6/19-25)

高橋委員長から次期編集長として小木曾会員を推薦するとの提案があり、承認された。なお、新編集長は幹事会に参加することになるが(会則第13条)、評議員会に参加してもらうためには、評議員として選出される必要がある。

参考: 和文誌「地球化学」の編集体制に関する申し合わせ(2011年2月11日評議員会)

和文誌「地球化学」の編集は、「地球化学」編集委員長と「地球化学」編集委員長が任命した「地球化学」編集委員から構成される「地球化学」編集委員会がおこなう。「地球化学」編集委員長の任期は2年とし、再任を妨げない。任期は1月1日を開始日とする。「地球化学」編集委員長は、任期2年目の第1回評議員会において、次期も継続して任にあたるかを表明し、承認を得る。「地球化学」編集委員長が交代となる場合、次期「地球化学」編集委員長は、会長、副会長、現「地球化学」編集委員長の3名と会長が指名した若干名を加えた「地球化学」編集委員長選考委員会において候補者を選出し、評議員会に諮る。次期「地球化学」編集委員長は、現「地球化学」編集委員長の任期満了の6カ月前(前年6月末日)までに決定する。「地球化学」副編集委員長は、必要と判断された場合に、「地球化学」編集委員長が候補者を選出し会長の承認を得て任命することができる。

1.5. 広告幹事新設について(6/19-25)

庶務幹事の仕事量、広告収入の必要性、広告企業開拓の具体的方法、幹事を新設することの妥当性とその時期について議論された。しかし、慎重な意見が多く出されたこと、および新設するとしても今の時

期が必ずしも適切ではないとの判断から、次期執行部、評議員会に引き継ぎ、さらに具体的に検討することとした。

1.6. 第1回評議員会議事録が承認された。(6/26-7/1)

1.7. GC2016準備委員会(LOC)への資金貸付について(7/2-8)

GC2016準備委員会(LOC)が学会会計の「GC準備・開催基金」から200万円を借り入れたいとの申し出について承認し、総会に諮ることとした。

1.8. 「地球化学」、GJ特集号の表紙について(7/9-22)

GJ特集号の表紙に、そのテーマに関する画像を載せてはどうかという意見が、学会webサイトの「御意見箱」に寄せられた(平野 直人会員、2013/05/20)。GJは電子化されたので見る人が少ないとの意見も出されたが、GJおよび地球化学には学会の宣伝効果も考えられること、追加の経費は発生しないことから、両者の特集号の表紙変更をguest editorがオプションとして選べることとした。表紙変更を希望するguest editorには、編集長と相談しながら通常号の表紙のコンセプトを何らかの形で残したデザインを提案してもらい、最終的には編集長が決定する。

1.9. JpGUからの要請への対応について(8/9-16)

JpGU 大気水圏科学セクションの中島プレジデントから、タスクフォース会合(TF)・リモートセンシング分科会が母体となり、産官学による利用コミュニティを作って政府、関係機関などへ地球観測衛星の必要性、有用性をアピールしていく活動についての協力要請があった。本会は利用コミュニティの設置および学会として担当者を配置することに賛同することとした。

2. 報告事項等

2.1. 庶務(豊田幹事)

2.1.1. メール審議(括弧内は審議期間)

・GSとのMOU締結について(意見照会)(2013/2/24-3/10): GS会長より送られてきたMOU案について、会長から提案された、①GSと本会との間の一般的なMOU、②GSとGC2016組織準備委員会(LOC)との間のMOUまたはcontract、の2段階とする対応が了承された。

・Geochemical Journal Award (GJ賞)受賞者決定について(3/4-5): 川幡受賞者選考委員長から以下の論文を受賞候補とする旨の報告があり、承認された。Yusuke Nakagawa, Shotaro Takano, M. LutfiFirdaus, Kazuhiro Norisuye, Takafumi Hirata, Derek Vance and YoshikiSohrin, "The molybdenum isotopic composition of the modern ocean", Geochemical Journal, Vol. 46 (No. 2), pp. 131-141, 2012.

・年会Webページ改訂について(4/1-5): LOCの負担軽減を目的とした年会webページの要旨申請に関する部分の改訂(今回限りの100,000円の追加費用を支払う)について、原田広報幹事からの提案が承認された。

・年会への外国人招聘について(4/2-9): 海外研究者招聘WGによるガイドライン案が主査の平田幹事より報

告され、審議にもとづき修正された。

—日本地球化学会 海外研究者招聘ガイドライン—

主旨:日本地球化学会の活動の国際化に伴い、海外で活躍する研究者を招聘する機会が増加した。学会として適切に招聘を行う為、目的、規模、形態に応じて招聘を以下の2つに区分する。この区分にしたがい、担当者は円滑な招聘に務める。いずれの区分にも属さない場合は、評議員会で個別に議論し、個々の事案に対して適切な対応法を策定する。

区分1:学会活動全般に益する招聘者

招聘者の認定:日本地球化学会評議員会

担当:企画幹事

経費負担:旅費・滞在費を日本地球化学会が負担

規模:年間最大1名程度

例1:MOUに関わる研究者交流 例2:Goldschmidt国際会議等、日本地球化学会が主導的に運営する国際会議に関わる研究者交流

区分2:日本地球化学会年会あるいは日本地球惑星科学連合大会(地球化学会会員が主催するセッション)等における学術分野・研究者に益する招聘者

招聘者の認定:日本地球化学会年会実行委員長あるいは連合大会でのセッション担当者(地球化学会会員)

担当:日本地球化学会年会実行委員長あるいは連合大会での招聘提案者(地球化学会会員)

経費負担:旅費・滞在費の全部あるいは一部を年会LOCあるいは招聘提案者が負担

規模:制限は設けない(経費に応じて担当者が判断する)

例1:年会セッションへの海外研究者招聘 例2:海外の著名な研究者が日本に滞在している場合に年会あるいは連合大会に招聘する場合 例3:大型研究計画実施に向けた研究ネットワーク構築

・年会における学生賞について(4/36-30):鉱物学会との共通セッションで発表した学生を学生発表賞の対象とするかどうかについて、平田幹事より意見照会があった。さまざまな角度から議論されたが、技術的に実現が難しいことから、学生発表賞は本会会員に限ることとなった。

・GJ科研費の用途および運用について(5/1-6):交付申請書の記載に関わる方針が提案され、承認された。

2.1.2. 科研費(研究成果公開促進費)事務

・H25年度「国際情報発信強化(B)」に申請した、「日本地球化学会発行国際科学誌による国際情報発信強化」が採択された(81件の応募に対し39件採択(採択率48.1%))。交付申請書類を提出した(5/7)。

・H25年度「研究成果公开发表(B)」に申請した、2013年年会の市民講演会「東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質汚染」(副題:地球化学から知るその状況と今後の対応)が採択され、交付申請書類を提出した(5/7)。

・H24年度科研費(GJ)の実績報告書を提出した(5/7)

2.1.3. 協賛、共催予定

- ・第41回可視化情報シンポジウム(2013年7月16日～17日、主催:可視化情報学会、工学院大学、協賛)
- ・第57回粘土科学討論会(2013年9月4日～6日、主催:日本粘土学会、高知市文化プラザ、共催)
- ・第61回質量分析総合討論会(2013年9月10日～12日、主催:日本質量分析学会、つくば国際会議場、共催)
- ・日本地質学会第120年学術大会巡検(2013年9月13日～17日、主催:日本地質学会、仙台、協賛)
- ・第5回アジア太平洋放射化学シンポジウム(APSORC13)(2013年9月22日～27日、主催:日本放射化学会および金沢大学、金沢市文化ホール、共催)
- ・国際第四紀学連合(INQUA)第19回大会(2015年7月27日～8月2日、主催:国際第四紀学連合(INQUA)、日本第四紀学会、日本学術会議、共催)

2.1.4. 年会関連

- ・日本化学会、日本分析化学会、日本地質学会、日本質量分析学会、日本鉱物科学会に共催依頼し、承認された。各学会の会誌、メールニュース等での広報を依頼した。
- ・中国鉱物岩石地球化学会のHu新会長を学会予算(行事費)で招聘、Liu前会長を東工大が招聘する。招聘の手続き等は庶務、会計幹事が行う。
- ・Liu前会長を総会で紹介した上で、Hu新会長(鉱床学)には総会で講演してもらう。

2.1.5. 広告

- ・本年度の和文誌広告掲載申込は、三愛科学(1, 3号)、サーモフィッシャー(1-4号)、光信理化(1-4号)、PTT(2号)の4社(5/23現在)
- ・ホームページ広告はテラパブ、三洋貿易(以上昨年度から継続)、PTT(4月～)の3社

2.1.6. 各種表彰の推薦

- ・第10回日本学術振興会賞 候補者の推薦受付(3月20日メールニュース配信)、3月31日の庶務幹事宛締切までに応募なし。
- ・第4回日本学術振興会 育志賞 候補者の推薦受付(4月28日メールニュース配信)、5月31日の庶務幹事宛締切までに応募なし。
- ・H26年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞および若手科学者賞受賞候補者の推薦受付(4月28日メールニュース配信)、6月30日の庶務幹事宛締切までに応募なし。
- ・第5回とうきゅう環境財団社会貢献学術賞 候補者の推薦受付(近日中にメールニュース配信予定、8月17日庶務幹事宛締切)

2.1.7. 本田雅健名誉会員ご逝去

本会名誉会員の本田雅健先生は、2月16日午前1時に亡くなりました。メールニュースで周知するとともに、ご自宅(ご遺族)に会長名で生花と弔電をお送りした(2/25)。「日本地球化学ニュース」の訃報記事を永井尚生会員に、「地球化学」の追悼記事を海老原前会長にそれぞれ依頼した。

2.1.8. GJ賞、学会賞、鳥居基金

- ・Elements4月号にGJ賞受賞者の紹介記事が掲載された。
- ・吉田会長がChristopher Ballentine EAG会長と交渉した結果、昨年に引き続きGJ賞授賞式が、今年初めてが行われることになった(別添資料5)。Citationは受賞記念講演の際に行う。登壇者は共著者の宗林由樹会員。
- ・筆頭著者に授与する盾、共著者に授与する賞状を発注した。筆頭著者に贈られる副賞は会長が振り込んだ。
- ・学会賞2件、奨励賞5件、功労賞1件の応募を受け付け、受賞者等選考委員長に書類を送付した。
- ・平成25年度第1回鳥居基金は、選考委員会における審査の結果、申請のあった4件(海外渡航3件、国内研究集会1件)のうち、下記2件の申請に対し助成を行う。

海外渡航: 岩本洋子会員(金沢大学)、Goldschmidt 2013での研究発表 助成金額: 10万円

国内研究集会: 三輪一爾会員(北海道大学)、2013年度日本地球化学若手シンポジウム助成金額: 10万円

2.1.9. 2013年第2回幹事会(5月25日(土)12:30-17:30、JAMSTEC東京事務所)

出席者: 吉田会長、山本副会長、塚本・GJ編集委員長、高橋・和文誌編集委員長、下田、原田、益田、南、川幡(13:00から出席)、平田(16:30から出席)、豊田の各幹事

第2回評議員会の議案整理を行った。

2.1.10. その他

- ・在外会員(外国人)からの領収書発行依頼への対応(2/25)
- ・GJ冊子体販売方法変更に伴う庶務(2-4月)
- ・テラパブより、Elements6月号掲載予定のGJの広告原稿が報告された(5/8)
- ・「学校教育にかかわる教材や野外活動における学術的な疑義」に関する陸水学会からのアンケート依頼に回答(6/4)

2.2. 会員(下田幹事)

1月から4月までの会勢は以下の通り。

日本地球化学会会員数(2013年4月30日)

会員種別	人数	契約口数	GJ冊子希望
一般正会員	722		60
学生正会員	116		4
うち、学生パック	(29)		(0)
シニア正会員	60		8
賛助会員	9	9	2
名誉会員	10		1
合計	917		75

会員異動(2013/1/1～2013/4/30)

【入会】

(1月)

会員番号	会員名	会員種別
9282843	馬上 謙一	一般正会員
9282844	岩本 洋子	一般正会員
9282845	呉 晨	一般正会員
9282846	三輪 一爾	学生パック
9282847	篠原 隆一郎	一般正会員
9282848	木下 哲一	一般正会員

(2月) なし

(3月) なし

(4月)

9282850	金 泰辰	学 生
9282860	須田 好	学生パック

【退会】

(1月)

会員番号	会員名	会員種別
3280603	大森 幸子	一般正会員
4282206	山岸 洋明	一般正会員
9281644	上野 隆	一般正会員
9282562	牛江 裕行	学生正会員
9282565	吉崎 もと子	学生正会員
9282704	太田 朋子	学生正会員

(2月)

1280113	本田 雅健	名誉会員	逝去
9280775	北岡 豪一	一般正会員	
4282109	セキテクノロン(株)賛助会員		

(3月) なし

(4月)

7280865	神崎 忠雄	一般正会員	逝去
---------	-------	-------	----

【会員種別変更】

(1月)

会員番号	会員名	変更前	変更後
6281151	松田 准一	一般正会員	シニア正会員
9282431	堀口 桂香	学生正会員	一般正会員
9282574	橋口 未奈子	学生正会員	一般正会員
9282678	吉村 寿紘	学生正会員	一般正会員
9282686	前田 俊介	学生パック	学生正会員
9282709	得丸 絢加	学生パック	学生正会員
9282714	山崎 敦子	学生パック	学生正会員
9282720	北村 文彦	学生パック	学生正会員
9282724	高柳 栄子	学生パック	学生正会員
9282725	吉田 健太	学生パック	学生正会員
9282726	藤谷 渉	学生パック	一般正会員
9282729	上野 昂幹	学生パック	学生正会員
9282739	山口 祥	学生パック	学生正会員
9282741	阿部 健康	学生パック	学生正会員
9282742	都築 達矢	学生パック	学生正会員
9282743	小原 北士	学生パック	学生正会員
9282744	高地 吉一	学生パック	学生正会員
9282748	望月 智貴	学生パック	学生正会員
9282749	中畑 良紹	学生パック	学生正会員
9282750	坪井 辰哉	学生パック	一般正会員
9282751	永田 啓晃	学生パック	学生正会員
9282752	向高 新	学生パック	学生正会員
9282754	高野 祥太郎	学生パック	学生正会員
9282755	氷上 愛	学生パック	学生正会員
9282762	川崎 教行	学生パック	学生正会員
9282763	永井 友一朗	学生パック	学生正会員
9282765	荒岡 大輔	学生パック	学生正会員
9282766	安田 早希	学生パック	学生正会員
9282767	坂本 祐樹	学生パック	学生正会員
9282768	横田 和也	学生パック	学生正会員
9282770	小森 昌史	学生パック	学生正会員
9282773	江本 真理子	学生パック	学生正会員
9282779	野坂 裕一	学生パック	学生正会員

(2月)

会員番号	会員名	変更前	変更後
------	-----	-----	-----

9282597	服部 祥平	学生正会員	一般正会員
(3月)			
9282408	富田 純平	学生正会員	一般正会員
9282520	三好 陽子	学生正会員	一般正会員
9282596	山田 健太郎	学生正会員	一般正会員
9282710	福田 美保	学生正会員	一般正会員
9282714	山崎 敦子	学生正会員	一般正会員
(4月)			
9282615	中川 麻悠子	学生正会員	一般正会員
9282768	横田 和也	学生正会員	一般正会員

【除名取消】

2281610 杉谷 健一郎

【退会取消】

5280148 石原 舜三

2.4. GJ(塚本編集委員長)

2.4.1. 発行・編集状況

2013 年 vol. 47, No. 1 は2 月に、No. 2(特集号)は5 月に発行された。5 月1日現在の投稿数は193報、うち受理58(44%)、却下74(56%)、審査中59、取り下げ2となっている。特集号は、第58 回年会「水圏環境地球化学—佐竹洋先生記念シンポジウム」に基づく特集号(富山大・張会員)、Goldschmidt 2013”Refractory Grains, Volatiles, and Organic Molecules Inherited from the Interstellar Medium”に基づく特集号(Lydie Bonal, Shogo Tachibana, Henner Busemann)を予定している。

2.4.2. その他

Geochemical Awards 2013 選考結果は評議員会で承認され、ゴールドシュミット会議で授賞式を行う。科研費が採択され、評議員会で運用方法が承認された。

2.5. 和文誌「地球化学」(高橋編集委員長)

2.5.1. 60 周年記念特集号について

年会直前配布の47 巻第3 号を予定。(1)地球化学のこれまでの歩みを振り返り、若手を激励する記事、(2)30 年後である2043 年の仮想的「地球化学」誌(「地球化学」Vol. 77)(執筆者が30 年後になりきって仮想的に記事を執筆)の二部構成とする。各担当編集員が編集作業中(12 報中4 報が受理済み)

(1)【回顧と激励の記事】(長さ目安:刷り上がり12 ページ)

1. 和田英太郎(高野)⇒受理:「窒素・炭素同位体生物地球化学から同位体生態学への半世紀」、2. 野津憲治(小畑)⇒原稿待ち(催促済)、3. 杉崎隆一(谷水)⇒査読中:「私論「地球化学の広域的視野を探る、とくにその社会的機能」、4. 長沢宏(高橋)⇒受理:「地球化学の戦後—つわものどもが夢の跡」、5. 海老原充

(田中)⇒原稿待ち(催促済)

(2)【30年後の地球化学】(長さ目安:刷り上がり2ページ)

1. 鳥海光弘(小木曾)⇒受理:「地球化学におけるデータ駆動科学」、2. 丸山茂徳(小木曾)⇒査読中:、3. 田中剛、加藤丈典(田中)⇒受理:「Allende 隕石マトリクス中に56.7億年の年代を持つ先太陽系Ba(Ti-Th)O₃ 微粒子の発見」、4. 蒲生俊敬(井上、高橋)⇒原稿待ち(催促済)、5. 荒井章司(高野)⇒受理:「サイエンスとしてのマントル掘削:そのインパクトと展望」、6. 加藤学(谷水)⇒査読中:「火星からのサンプルリターン」、7. 植松光夫(松本)⇒査読中(催促済)

2.5.2. 発刊予定

【2013年Vol.47, No.2】(6月下旬発行予定)0. 本田先生追悼記事:海老原充(原稿待ち)、1. 企画総説「地球化学の最前線」:宮原正明「隕石中の高圧相の生成メカニズム」、2. 総説:土岐知弘「琉球諸島周辺におけるメタンを主成分とする地殻内部流体の分布と地質背景との関連性」、3. 報文:伊藤由喜ほか「二枚貝(オキシジミ)各組織の金属元素蓄積特性 -生物を用いた潮間帯金属元素汚染指標の確立に向けて-」、4. 報文:金井豊「メコンデルタ堆積物におけるベリリウム-7, 鉛-210 及び放射性セシウム同位体の分布と堆積環境の季節変化」、5. 博士論文抄録:横山由佳「カルサイト中のヒ素及びセレンの分子地球化学」

2.5.3. 編集長の交代について

2014年より小木曾哲会員(京大)に依頼

2.6. 会計(南幹事)

- ・2012年会費未納者が約60名。そのほとんどは一般正会員。徴収時期(学生から一般正会員への切り替え時)に、郵送だけでなく電子メールによる周知も行う。
- ・自動引き落としによる会費納入を周知、推奨する。ただし公費払いをする場合には引き落とし時期が問題となるかもしれない。
- ・JpGU大会、年会で、本・雑誌の販売と合わせて入会手続き、会費徴収を行う。

2.7. 企画(平田幹事)

2.7.1. 日本地球惑星科学連合(JpGU)大会

5月19-24日に幕張メッセにて開催された。地球化学会が支援するセッションとしては「固体地球化学・惑星化学」(固体地球化学セッション:コンビーナ下田、鈴木(勝)、山下)、「地球化学の最前線」(領域外・複数領域セッション:コンビーナ横山(哲)、角野、小畑、高橋、平田、角皆、橘、鈴木(勝)、下田、鍵、横山(祐))が企画された。「固体地球化学・惑星化学」では口頭20件、ポスター14件、「最前線」では口頭発表13件、ポスター5件の発表があった。また展示ブースを開設し、学会パンフレットの配布(広報の成果)、書籍販売、年会ポスター掲示(右下図)、ショートコースパンフレットを配布した。

2.7.2. 2013年ゴールドシュミット国際会議

8月25-30日にイタリア・フィレンツェにて開催される。地球化学会として協賛金(3000ドル)を支援。日本地球化学会会員は登録費が50ユーロ割引。24テーマ、200セッション、参加者は3500名(5/20現在)。

2.7.3. 日本地球化学会第60回年会

9月11-13日に筑波大学第一エリアにて開催予定。実行委員長は野尻幸宏会員。今年は日本鉱物科学会

との同日合同開催となる(地球化学会が第一エリア1D棟, 1E棟、鉱物科学会は1B棟, 1C棟)。今回もセッション制がとられ、「学会基盤セッション」(評議員が中心となりとりまとめたもの)が17、「特別セッション」(一般公募したもの)が2、地球化学会・鉱物科学会双方の会員が参加・発表できる「共通セッション」が4つの計23セッションからなる。固有セッション(学会基盤セッション、特別セッション)は6月13日(木)14時受付開始、7月17日(水)14時締切、共通セッションは6月7日(金)14時受付開始、6月23日(日)14時締切(セッションによって締切が異なる)。最終日にクロージング・セレモニーを開催し学生に発表賞を授与することとなった。受賞対象者は日本地球化学会学生会員のみ。候補者は発表申し込みの際に意思表示をする。

年会前日(9月10日(火))にショートコースを開催予定。5つの講演が確定。HPを開設し、6月から(年会講演申し込みに合わせて)参加申し込みを開始予定。

2.8. 広報(原田幹事)

2.8.1. 年会用ウェブサイトについて

国際文献(株)に改訂を依頼中。テスト版が送られてくる。平田幹事、LOC間でテスト版を使って入力してもらい、さらなる改訂が必要な部分の洗い出しを実施。5月27日-6月2日に修正してもらい、6月7日(年会の受付開始日)に公開予定。

2.8.2. 展示ブース

JpGU大会にて会員著書を販売。売り上げは、48冊(うち2冊は「地球と宇宙の化学事典」)で155,860円。Goldschmidt Conference2013ではケンブリッジパブリケーションズを通じて展示ブースの場所を依頼(6月10日が一般の展示ブースの締め切り)。日本地球化学会2013年会では展示ブース出すかどうか検討中。

2.9. GC(ゴールドシュミット会議)(益田幹事)

第3会GC2016準備委員会(5月25日)にて以下の審議がなされた。

- ・準備委員会運営要綱と収入取扱い要綱を2013年4月1日付けで発効させた。
- ・事務局運営を株式会社コンベンションリンケージに任せることとした。
- ・準備資金として横浜コンベンションビューローから500万円を借り入れる予定である。
- ・会議開催費用の見積もり算定中である。一般参加者2000名、学生500名、最早期参加費 55,000円として雑駁に見積もり、予備費が2000万円程度見込める。2000人で収支が釣り合う。現時点での見積もりには、学生への援助やイベント企画運営費などが計上されていないため、余剰金が確保された場合には、そちらへ回す心づもりである。

- ・国内関連学協会へ協力依頼を進める。

地球惑星科学連合へはすでに依頼、承諾を得た。日本鉱物科学会からは対応委員会を作って協力の内諾を得ている。他の学協会へは今後、正式の依頼文書を会長と準備委員長の連名で発送予定。

- ・6月17日にワシントンDCでGS会長 Dr. Richard Carlson, 副会長 Prof. Barbara Sollar, 吉田会長, 山下勝行会員(国際対応委員), 益田準備委員長の5名で打ち合わせを行う予定である。

- ・Cambridge Publicationとの契約はGSとの会合以降に行うこととした。

2.10. 学術会議の大型研究計画について(高橋評議員)

日本学術会議の「学術の大型研究計画マスタープラン」の提案募集に対し、日本地球化学会として「サステナブル地球科学を先導する地球化学分析拠点の形成」を提案し、4月6日(土)に地震研5F会議室で行われたのヒアリングに吉田会長、佐野評議員と出席し、発表を行った。さらに、このヒアリングで発表を行った全団体に対して永原裕子日本学術会議地球惑星科学委員会委員長から連合大会のユニオンセッション「地球惑星科学の進むべき道(5):大型研究のありかた」での発表の依頼があり、5月22日に発表を行った。本会を含む5学会による7件の発表(気象学会と海洋学会が各2件)、大学・研究機関9団体による11件の発表(地震研とJAXAが各2件)があった。4月のヒアリングで受けた指摘に対処し、(1)大気・海洋・環境を中心とした分析拠点とすること、(2)Future Earthとの連携、(3)具体的な研究テーマの数の絞りこみ、(4)試料形態に応じた即戦力の分析をする上でのサテライトの役割の重要性、などを述べた。ある情報によると、4月のヒアリングの結果、本提案は最終的な取り纏めに入る候補には残らなかった。しかし比較的よい成果が得られたと思われ、さらにブラッシュアップし、次なる提案につなげられればよいと考える(例えば、新学術領域への応募など)。そのためにも、このサステナに限らず、学会内での議論と外への発信を継続していく必要がある。

2.11. 次回幹事会・評議員会予定

2013 年度第 3 回幹事会:9 月 7 日(土)13:00 東工大大岡山キャンパス、第 3 回評議員会:9 月 10 日(火)
12:30 つくば

(庶務幹事・豊田栄)